

まちじゅう図書館 本格始動

市内の蔵書一元管理

袋井市

電子書籍の貸し出しや学校図書室と市立図書館の蔵書の一元管理を行う袋井市の「まちじゅう図書館」の運用が23日、本格的にスタートした。

本格始動した新システム「まちじゅう図書館」を利用する生徒＝袋井南中



まちじゅう図書館は、児童や生徒らが端末を使って自宅からでも電子書籍を読むことができるほか、在籍する学校を通して市立図書館と他校の書籍の取り寄せや返却ができるシステム。市内の市立図書館と全小中学校の図書室にある計約50万冊をICTタグで一元管理することで貸借の利便性を向上させ、読書活動の活性化を図る。読んだ図書を記



読んだ図書を管理する「ふくぶっく通帳」

載して管理する「ふくぶっく通帳」も年度内をめどに、市内の全小中学生に配布する予定。

サービス開始初日、市内4中学校の中で図書室の利用率が一番高い袋井南中では、早速多くの生徒で図書室がにぎわった。サービスのPRに訪れた大場規之市長は「より読書に親しんで、読む力や書く力、話す力を高めてほしい」と期待した。同校学習図書委員長の渡辺祥多さん「2年」は「本が調べやすくなり便利になった」と喜んだ。

(袋井支局・北井寛人)